

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	有限会社コンフィアンス
事業所名	グループホームふれあいの丘
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志1330番地 (電話) 099-413-8166
自己評価作成日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、同一法人の介護付き有料老人ホームと協力医療機関である志布志中央クリニックが、隣接しており、連携が得られやすい環境にある。また、グループホームに常勤看護師を4人雇用しており、医療との連携がとりやすく、施設での看取りを行っている。施設が郊外にあり、敷地が広くのどかな環境下にある。事業所開設から18年経過しており、認知症ケアの実践を積み重ねてきている事も強みである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同法人の運営する介護付き有料老人ホームと隣接しており、ホーム周辺には協力医療機関やコンビニ、市役所等がある利便性のよい環境にある。また、地域住民との関係も良好であり、以前は保育園児との交流や法人主催の地域サロンへの参加、お釈迦祭りや地域行事にも積極的に出かけ交流していたが、現在はコロナ禍により自粛しており、地域住民等とふれあう機会が少なくなっている為、コロナ感染症収束後は地域交流を再開させたい意向である。

年間研修計画に身体拘束に関する研修を年2回組み込み実施すると共に、毎月の身体拘束委員会において拘束の有無の確認や事例検討を行い身体拘束の弊害、拘束による抑圧のない暮らしについて話し合っている。利用者が外出しそうな様子に気付いた時は、職員間で見守りを徹底させると共に、一緒に外を歩く等、気持ちに寄り添う支援を行っている。また、隣接する有料ホームに利用者の情報を伝え、万一の時は見守りや声掛けをもらえる関係を築いている。

二日に一度、食材の買い出しに出かけ、購入した食材や利用者の食べたいものを尋ね、当日のメニューを決めている。利用者が包丁を使うことはないが、野菜の下ごしらえに職員と一緒に取り組む等、できることに参加している。また、敷地内にびわや柿の木が植えてあり、菜園には里芋や生姜等の野菜を植え、利用者や職員と一緒に収穫し食材として利用しおいしく頂いている。食事制限のある利用者や行事食については有料ホームで調理したものを提供している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「介護される人もする人も共に生きられる地域社会を目指して」という理念を掲げ、理念をケアの道しるべとして日々支援を行っている。	基本理念とケア目標を玄関とフロアに掲示し、毎月の職員会議で唱和することで意識付を図っている。ケア目標にある「家庭的な」「家族の温もり」を大切に考えながら日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でもあり、外部との接触は限られており、日常的に交流ができない状況であったが、地域の民生員の協力を頂きながら、地域との付き合いが継続できるように努めている。	以前は保育園児との交流やボランティアによる慰問、地域サロンに参加していたが、コロナ禍の現在、外出を自粛している為、交流できていない。日常的に散歩に出かける機会を作り、近隣の方と散歩途中に挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族や地域の方から、認知症の方の相談を受ける事も多く、地域の福祉機関との連携を取りながら、支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で運営推進会議開催は、できない状況もあり文書での報告と意見交換を行いながら、意見を取り入れサービス向上に努めている。	コロナ禍の為、家族や民生委員、行政職員等による対面での会議は実施できておらず、現在は事前にメンバーに資料とアンケートを送付して意見をもらい、議事録を作成している。5類になる5月以降、感染状況をみながら対面での会議開催を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携は日ごろから密に取れており、協力や助言を頂いている。特に志布志市は適正化事業の実施においても介護サービス向上に協力を頂いている。</p>	<p>行政には介護関係資料提出や相談事がある時に電話や出向く等して助言をもらい日々の業務運営につなげている。また、行政からはコロナ関係の支援についてメールが届いたり、オンラインによる集団指導に参加するなど協力関係を築いている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を3ヶ月に一回開催しており、その中で事例を報告し、協議し内容をスタッフ全員に周知している。</p>	<p>身体拘束に関する研修を年2回実施すると共に、身体拘束委員会を毎月実施し事例の報告や検討を行っている。利用者が外出しそうな様子を察知した時は、見守り、声を掛け、一緒に外を歩く等して本人の思いに寄り添う支援を行っている。言葉による拘束については、不適切な声掛けに気付いた時は職員同士で声を掛け合う等、注意喚起を図っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待に対しては、内部研修を通して、虐待をしないケアを話し合い学んでいる。また、日常のケアの中でも、スタッフ同士の気になる対応は、お互いが注意しあえる関係ができています。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>昨年度より成年後見制度を利用されている方がおられる。その際制度の勉強会を行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の契約に関しては、その都度毎回丁寧に説明し、理解と納得を頂けるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項に苦情受付窓口を記載し、契約時説明している。また、電話や来所時に意見を伺い、意見は職員で共有し、意見を運営に反映している。</p>	<p>利用者からは日常会話や入居時に把握した生活歴等から、家族からは面会に来られた際に意見や要望を聞き取るようにしている。コロナ禍により制限を受ける中での面会である為、家族との会話の中での何気ない言葉についても耳を傾け、思いを把握するよう努め、日々の支援に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者及び管理者は、必要時職員と個別に面談を行ったり、職員会議や朝のミーティング時に意見や提案を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>職員の意見は申し送り時や職員会議で聞くほか、日常会話にも耳を傾けている。また、事前に会社への要望についてのアンケートを取り、個別面談を実施する機会も設けている。勤務表作成時は休みの希望を尋ね、可能な限り対応できるよう調整している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>コロナ禍でのスタッフ不足で、就業環境は、大変な状況もあったが、代表者及び管理者は個別に面談を行って要望を取り入れている。例えば、コロナ感染症での対応での手当支給や有給をとれるように、働きかけるなど行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、併設する事業所や他の地域の同一事業所との協力を得ながら、スタッフが個々の力量に応じた研修が行えるように、研修内容を検討している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、コロナ禍でもあり、主に同一事業所間でのネットワークや相互訪問等の活動を中心に交流する機会を設け、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>感染症対策の為、ご本人との面談も難しい状況にあり、ご家族様(利用施設)からのご本人の情報を基に、入居時に本人様の要望を聞き、プランに反映して、入居後に不安を感じることなく過ごせるように(寄り添うケア)を心掛けている。また、入居後に変化があった場合はプラン変更(ミーティングにより)を行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>現在のご家族様の状況、利用開始前の事前調査・ご家族様からの要望をお聞きし、職員間で検討を行い対応している。状況により、主治医はじめ関連機関と連携をとるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申込時の状況、利用開始前の事前調査・ご家族様からの要望をお聞きし、職員間で検討を行い対応している。状況により、主治医はじめ関連職種と連携をとり、ご本人にとっての必要なサービスを検討に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、ご本人様を介護される一方的な立場とは考えず、生活を共にし、生活の知恵を教えて頂きながら共に支えあえる関係と考えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話時、面会時や近況報告書にてご家族へ状況をお伝えし、情報の共有を図り、ケアの方向性を考え、連携できるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会制限、受診も影響を受けていますが、主治医やかかりつけ医と連携を図り、継続受診をするように努めています。オンライン面会・窓越しで、ご本人を見ながら、ワイヤレスインターホンでの会話など状況がわかるようにしている。	これまでの馴染みの関係を入居時のアセスメントで聞き取り、友人知人とのつながりを維持できるよう電話の取り次ぎを行っている。現在はコロナ感染症拡大防止の観点から面会を制限しているところだが、今後は馴染みの人や場所に出かけられるよう支援していきたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに集う時間を設け、入居者同士で話したり、スタッフも話の中に入りストレスにならないように声掛け寄り添うようにしている。レクレーションも多くの方が参加できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族の相談が有れば、経過をフォローしながら、関係機関と連携し、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの関わりの中で声掛け・聞き取りし、カンファレンスを行い情報の共有を図りながら、ご意向に副えるように努めている。	思いや意向をうまく伝えられない利用者からは声掛けした際の表情や様子等から汲み取るよう努めている。また家族から聞き取った生活歴を台帳に記録し、興味のあるものに結びつける等、可能な限り本人の思いに近づけられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまでの関りのある方への聞き取りを詳細に行い、生活歴や生活環境を把握する事で、その人らしく生活できるよう対応している。また、得られた情報はスタッフ全員で共有し、同じ対応が出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活状況を確認しながら、ご本人の心身状態や有する力を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフのこだわりや狭い考えにならないよう、ミーティングの内容をプランに反映するように努めている。常にご本人・ご家族の意向を確認し、入居者中心のケアになるように心がけている。	事前に利用者や家族に意見や要望を尋ねケアプランに反映させている。また、受診時の医師の助言も支援内容に組み込むほか、ケア会議でのカンファレンスやモニタリングも照らし合わせ詳細なケアプランを作成している。定められた期間に捉われず状況に変化がみられた場合は速やかに現状に即したケアプランに作り直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分・排泄等日々の様子を記録しており、職員間での情報を確認できるようにしている。また、連絡帳・申し送り表を活かし、情報共有ができるようにしている。状況に応じてミーティングを行い、ケアの見直しを行いプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人及びご家族の状況に応じ、相談・助言を行っている。また、併設の有料老人ホームでどんなサービスを受けられるか等、説明・紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦で、運営推進会議の開催は難しい状況にありますが、運営推進委員に地域サロン、民生委員、市議会議員、元市議会議員、市保険課の方に入っただき、ご家族様を交え多義にわたる助言を頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、なるべく変更せず継続受診を心掛けている。状況に応じてスタッフが同行したり、ご家族との受診をお願いしている。	本人家族の意向を尊重し、かかりつけ医を決めてもらっている。コロナ感染症拡大の為、現在は職員が受診を支援しており、受診後は受診の内容を家族に報告している。また職員間でも情報漏れのないよう、申し送り時や都度、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護士も共に介護を行う事で、職員は協同して、個々の利用者の変化を速やかに共有し、早期に受診し適切な医療、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ渦で面会できないため入院先の相談員や、担当看護師に連絡をとり、情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、重度化対応・終末期ケア対応指針の説明や終末期に係る事前調査を行っている。ターミナルケアへの移行時は、ご本人様の情報をご家族様と共有し、説明・ご理解いただいたうえで、終末期に係る事前調査を現状に合うように取り直し、訪問診療・訪問看護等を利用しながら、ご意向に沿うように進めている。	入居時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」「終末期の医療についての事前調査書」を説明し同意を得ており、入居後、医師が終末期と判断した際に改めて事前調査書を説明し、家族と十分に話し合い確認を取っている。異常時の対応、看取りケアについての研修を行い、職員の看取り支援に対する不安感の軽減や技術向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを見て、日々研鑽している。看護師・管理者への連絡を行う等している。夜間は、ONコール対応できるよう周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナ渦にて実施できていない部分もある。消防所立ち合いの訓練はできていないが、事業内での夜間想定訓練はできている。</p>	<p>年2回、夜間想定 of 火災訓練を実施している。また、こまめにタコ足配線の点検や埃取りに努める等、身近な対策を行っている。備蓄については、飲料水や食料品を約3日分確保し、備品としてライト付きヘルメットや懐中電灯、カセットコンロ等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、基本的な人権の尊重を重んじ、一人ひとりの声掛けやプライバシーに配慮しながら、支援を行っている。	接遇に関する研修を実施し、居室でおむつ交換を行う際は、ドアや窓のカーテンを閉めて行うこと、また、さり気なくトイレの声掛けを行ったり、排泄確認の際は、普通便をAとすることで羞恥心に配慮している。ポータブルトイレの管理についても人目につかないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で、自然に希望や思いが表出できるように、利用者の思いに寄り添い、希望がかなえられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然帰宅したいという行動が起こるのでその心情を理解し、家族からの言葉を交えて、本人が納得できるような対応もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の着用したいものを勧めるが、中には重ね着をされたり、こもり熱も出るので季節に合わせた服装で過ごせるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は職員と入居者と同じ時間に食事を摂り、料理の感想や作り方等々話をしてきたが、コロナ禍にて時間をずらしとっている。できる手伝いはしていただいています。入居者が召し上がっている際は味付けについて話をしたり、楽しく召し上がっていただけようようにしている。	当日メニューを決める為、利用者のリクエストに応えることができる。フロアでニラの汚れ取りや、つわの筋取り等、調理の下ごしらえに参加する利用者もおり、職員と楽しく食事の準備を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や栄養士のアドバイスなどを参考に、食事カロリーや水分量などを決めており、習慣や好み、治療食など注意しながら、献立を決めている。毎日の食事量や水分量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理加算を頂き、協力医療機関のなかしま歯科より、指導を頂きながら対応し、その方に応じてなるべくご自分でしていただき、できない方は、声掛け・介助を行い口腔ケアを行っている。自分でできなくなった方に対しては、口腔ガーゼや舌ブラシ等を使用して清潔保持や誤嚥防止している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、自立の方は排泄の失敗の回数が減らせるよう声掛けを行うようにしている。介助の必要な方は、チェック表を参考に声掛け・誘導・一部介助しながら支援している。その方に合った排泄方法で取り組んでいる。	排泄のタイミングを把握できるよう、排泄チェック表に記録を取り、排泄補助用具に頼らずトイレで排泄できるようトイレ誘導を行っている。また、日中と夜間とでパットの容量を変える等、状況に応じた用具の選定、使用に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質の食べ物などを取り入れたメニューを心掛け、おやつに芋等を摂ってもらうようにしている。主治医へ相談し、服用管理含め、助言を頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているが、体調や気分を優先し、柔軟に変更している。また、浴槽にゆっくりつかりたい方や温度の好みなど個々に応じた入浴支援を行っている。	週2回の入浴を基本とし、入浴剤を用いたり、冬至にゆず湯を提供する等、楽しく入浴している。また、入浴日ではない日もおむつ使用の利用者には毎日陰部洗浄を行い清潔の保持に努めるほか、入浴後の皮膚ケア、水分補給にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調管理の為、状況に合わせた休息を取り、安眠に支障の無い様に取り組んでいる。夜間不眠が続いたり、興奮等で不安な場合は、専門医に相談するようにし、不安で休めない時は話を聞いたりして落ち着いて頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時に主治医に報告して、指示を仰いでいる。飲み込みの悪い方に対してはトロミをつけて服用支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前デイサービスで働いていたスタッフによりレクリエーション内容を替え楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出を控える状況にあり、受診での外出にしています。そのため、本人の体調に合わせ、施設周辺の散歩や日光浴をしている。	桜やコスモス等の季節の花見を楽しんだり、お釈迦祭りやホテル見物、買い物等、コロナ禍以前は積極的に外出していたが、現在は感染症を考慮して外出を自粛している。その為、クリスマス会や新年会等の行事を盛大に実施したり、外気浴を楽しめるよう敷地内に散歩コースを造設する等、コロナ禍であってもできることを検討し実行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、ご本人の状況等で金銭管理が難しく、お小遣いとして預かり管理を施設で行っている。本人の購入依頼は、スタッフにて行ったり、家族に伝え購入して頂くなどしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族とのオンライン電話が、利用できるようになり、ご家族様から連絡が増えている。ご家族のことを心配される思いが強い時は、家族への電話支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は、季節に応じた飾りつけや、花を飾り、音楽をかけるなどしている。また、心地よい清潔な空間になるように、心がけている。</p>	<p>共用空間であるフロアには季節の作品を掲示したり、花を飾る等、楽しく明るい雰囲気作りに努めている。また、明り取り窓の開閉による換気や空気清浄機、超音波加湿器による空調管理にも配慮すると共に、毎朝、清掃専門の職員の配置により消毒等、感染症対策を徹底させている。浴室やトイレの手すりや介護スペースは十分確保されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを置き、ゆったりできる場所を提供している。フロア内で、利用者同士で話をされるときは、椅子の移動を行い話しやすいように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の好みや生活スタイルに合わせて自宅で愛用のものを持ち込んで頂くようにしている。タンス等の配置は、ご本人ご家族に相談をし、使い勝手の良いように努めている。</p>	<p>電動ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられているが、自宅との変化により不安を感じることもないよう馴染みの品を持ち込んでもらえるよう伝えている。家具の配置については、動線を考慮して安全且つ居心地に配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご本人の状況を見ながら、ミーティングを行い、不安や混乱を起こすような物がないか、動線状況は安全であるかなどを、絶えず確認して、自由に安全に行動できるように支援している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない